

[別紙2]

審査の結果の要旨

氏名 松本 聡子

本研究は、覚せい剤取り締まり法違反で矯正施設に入所した者を対象とした集団精神療法の効果の査定と検証を目的として行われたものである。

集団精神療法に参加した 51 名を介入群、ウェイティングリストに載せられた 58 名をコントロール群とし、集団精神療法開始の約 2 週間前 (T1) および約 2 週間後 (T2) に自記式質問紙の配布・回収を行った。集団精神療法の効果を査定するため、ローゼンバーグの自尊心尺度と改訂 UCLA 孤独感尺度に関し、T2 時のこれら 2 つの尺度の総合得点が、基本属性と T1 時のこれら 2 つの尺度の総合得点を統計的に統制した上で、2 群間で差があるかを調べるため、基本属性 (IQ, 年齢, 在所年数) ならびに T1 時の各尺度の値を共変量とし、T2 時の各尺度の値を従属変数とした計 2 パターンの共分散分析 (ANCOVA) を行った。

また、薬物への態度尺度に関しては、介入群とコントロール群の各群において、T1 と T2 時の回答の比較をそれぞれ行うため、Wilcoxon の符号付順位検定を行った。さらに、T1 時の回答に、介入群とコントロール群の 2 群間で差があるかを検討するため、Mann-Whitney の U 検定を行った。解析の結果、下記の結果を得た。

1. ローゼンバーグの自尊心尺度においては両群間で 10%水準の有意傾向が見られ ($F = 2.86, p = 0.09$)、集団精神療法の参加により自尊心が高まることが示された。自尊心の低さは非行と密接な関係を持つとの先行研究もあり、自尊心の回復は集団精神

療法による重要な効果の1つと考えられる。この結果は、抑うつ状態の改善と関連している可能性もある。

2. 改訂版 UCLA 孤独感尺度については有意差が認められなかった ($F=1.20, p=0.19$)。孤独感に関しては、先行研究やグループワークという取り組みの性格から変化が期待されたが、調査結果は予想に反したものであった。

孤独感に変化が見られなかった理由については、集団精神療法の回数と内容の両面から検討していく必要があると思われるが、一つの仮説としては、対象者達が有していた孤独感は非常に根深いものであったため、全8回の集団精神療法では効果が現れなかったという可能性も考えられる。したがって、今後は、孤独感に焦点をあてた対応や回数の増加を検討する必要も考えられよう。

3. 薬物態度尺度の各項目に関しては、コントロール群のT1時とT2時の回答の比較の結果、全項目において有意差は認められなかった。一方、介入群においては、項目⑥「使っていた薬物を止めることに対する不安はある」で5%水準の有意差が認められ ($Z=-2.34, p=0.02$)、項目⑦「施設入寮（少年刑務所入所）は薬物使用をやめることのきっかけとなると思う」では10%水準の有意傾向が見られた ($Z=-1.95, p=0.06$)。項目⑥「使っていた薬物を止めることに対する不安はある」に関しては、「そう思わない」という回答が「どちらともいえない」の方向に変化したことは、覚せい剤はいつでもやめられる、と考えていたものが、これまでの自分は薬物に依存していたという自覚が集団精神療法の参加を通して生まれたことにより、覚せい剤をやめることは思っていた以上に困難なことなのかもしれない、という考えが得られつつあるからであるという仮説が考えられる。刑務所での処遇から、出所後、病院やDARC、NA等の社会内処遇につなぐという意味でも、出所後に薬物を絶てるかどうかということに関し、不

安が増したという態度の変化が得られたことは極めて意義深いことであると考えられる。さらに、項目⑦「施設入寮（少年刑務所入所）は薬物使用をやめることのきっかけとなると思う」に関し、「だいたいそう思う」の回答が「たいへんそう思う」方向に変化したことについては、集団精神療法の効果を実感したことの現れであるという解釈もできるであろう。

これら以外の項目については、有意差および有意傾向ともに認められなかった。さらに、T1 時の各項目の回答を介入群とコントロール群で2群比較した結果、全項目について有意差は認められなかった。

以上、本論文は、集団精神療法は、わが国の矯正施設に在所している覚せい剤乱用青年に有益であることを明らかにした。薬物乱用、とりわけ覚せい剤乱用はわが国の青少年をめぐる大きな社会的問題であるにもかかわらず、薬物依存者を対象とした集団精神療法を用いた介入研究は日本国内ではほとんどなく、加えて、矯正施設における覚せい剤乱用青年を対象とした介入研究は皆無であるため、今後、わが国の矯正施設における集団精神療法のあり方について検討を行う際に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。